

安心・安全 info

インフォメーション

発行：自然社
〒064-0914
札幌市中央区
南14条西8丁目1056番1
Tel.011-562-0606
Fax.011-562-0808

防犯対策に携わる人のためのミニ情報誌

http://www.shizen-sha.co.jp

2012.5



セスでき、顔を合わせず接触できることから、薬物の売買方法などとしての悪用も広がっています。放っておけない
子どもの危機感欠如
親の「知らぬが仏」

携帯電話やパソコンの普及により、今やインターネットは子どもの生活にも不可欠なものとなりました。しかし、それは、犯罪と子どもとの接触機会を増やすことと同義ともいえ、見過ごすことができない状況です。

行ってしまうのもネットという目に見えない空間を利用するためです。

忍び寄る魔の手

子どものネット利用を悪用

たとえば、援助交際の温床となる「出会い系サイト」。禁止法施行や、有害サイトをブロックするフィルタリングの効果により、出会い系サイトに起因する犯罪被害は激減しました。しかし、根絶にはいたらず、悪事をはたらく者はさまざま別の潜伏先を見つけました。異性への興味や金品目当てではない子どもたちも気軽に利用しているゲームサイトや仲間づくりを目的とするコミュニティサイトがそれで、「なりすまし」により多くの子どもが被害に遭っています。

見えない心

見えない行動

以前、子どもの「非行」といえば多くの場合、「反抗心や大人の世界への興味などからくるもので、外見や行動の変化からその兆候を見て取れました。しかし、いまはその図式が必ずしも成り立たないようです。

このように、有害サイトを排除するだけでは子どもを守れないことから、健全なサイトの利用を推進することで子どもの安

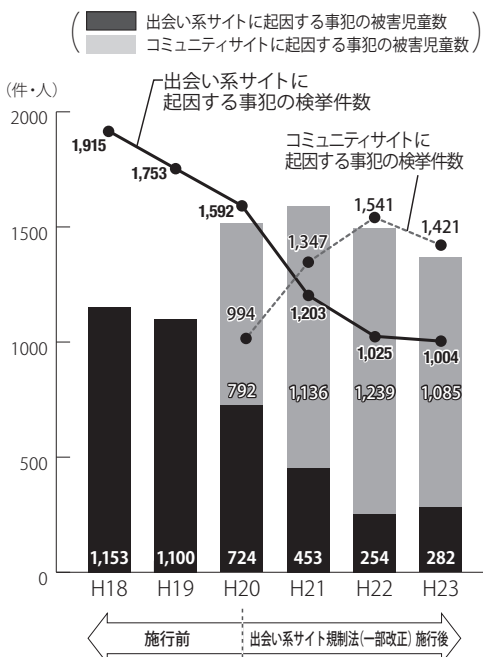
あふれる情報と物に取り巻かれた現代の子どもたち。彼らの興味は、パソコンや携帯電話などの機器を通じた目に見えない形で行き交っていることから、その思いや行動はさらに見えにくいものになっているのでしょう。匿名性を利用した犯罪やいじめが横

全を確保しようとしてEメール(モバイルコンテンツ審査・運用監視機構)が発足されました。その監視の目も日々強まっています。犯罪者はその監視の目さえもかいくぐり、隠語などをたくみに利用して子どもたちと接触し、現実世界で被害を及ぼしているのです。

ネットは危険な「出会い」のきっかけを作るだけではありません。居住地に関係なく簡単にア

強く求める必要があるといえるでしょう。

犯罪被害児童の利用サイト
「出会い系」から「コミュニティ」へ



※平成19年以前はコミュニティサイトに起因する被害児童数は計上されていません。

■平成23年中、全国の犯罪情勢

DV 事案認知件数過去最高に

昨年中の配偶者からの暴力(DV)事案の認知件数は3万4,329件。いわゆる「DV防止法」(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)の施行後過去最多だった。一方、スーカー事案の認知件数は1万4,618件。前年に比べて減少はしたものの、4年連続1万4千件を超えた。

不正アクセス行為認知件数は半減

昨年中の不正アクセス行為の認知件数は889件で前年に比べ半減した。識別符号の入手手口はフィッシングサイトや利用権者のパスワードの設定・管理の甘さにつけこんだものが多いとみられている。

過去最高、ネットワーク利用犯罪

昨年中のサイバー犯罪の検挙件数は5,741件で、前年に比べ減少する一方、全国の警察で受理したサイバー犯罪等に関する相談件数は8万273件で前年に比べ増加した。また、サイバー犯罪のうちの大半が「ネットワーク利用犯罪」で、5,388件と過去最高を記録した。

検挙件数増、ネット利用薬物密売事犯

昨年中の「薬物情勢」によると、検挙人員のうち覚醒剤事犯が86.1%、大麻事犯が12.0%を占めた。また、運び屋によるものが8割にのぼる密輸入事犯の検挙件数が平成に入り最多となったほか、インターネット利用薬物密売事犯の検挙件数も増加した。

■「ID・パスワードの不正取得・保管」も処罰対象に

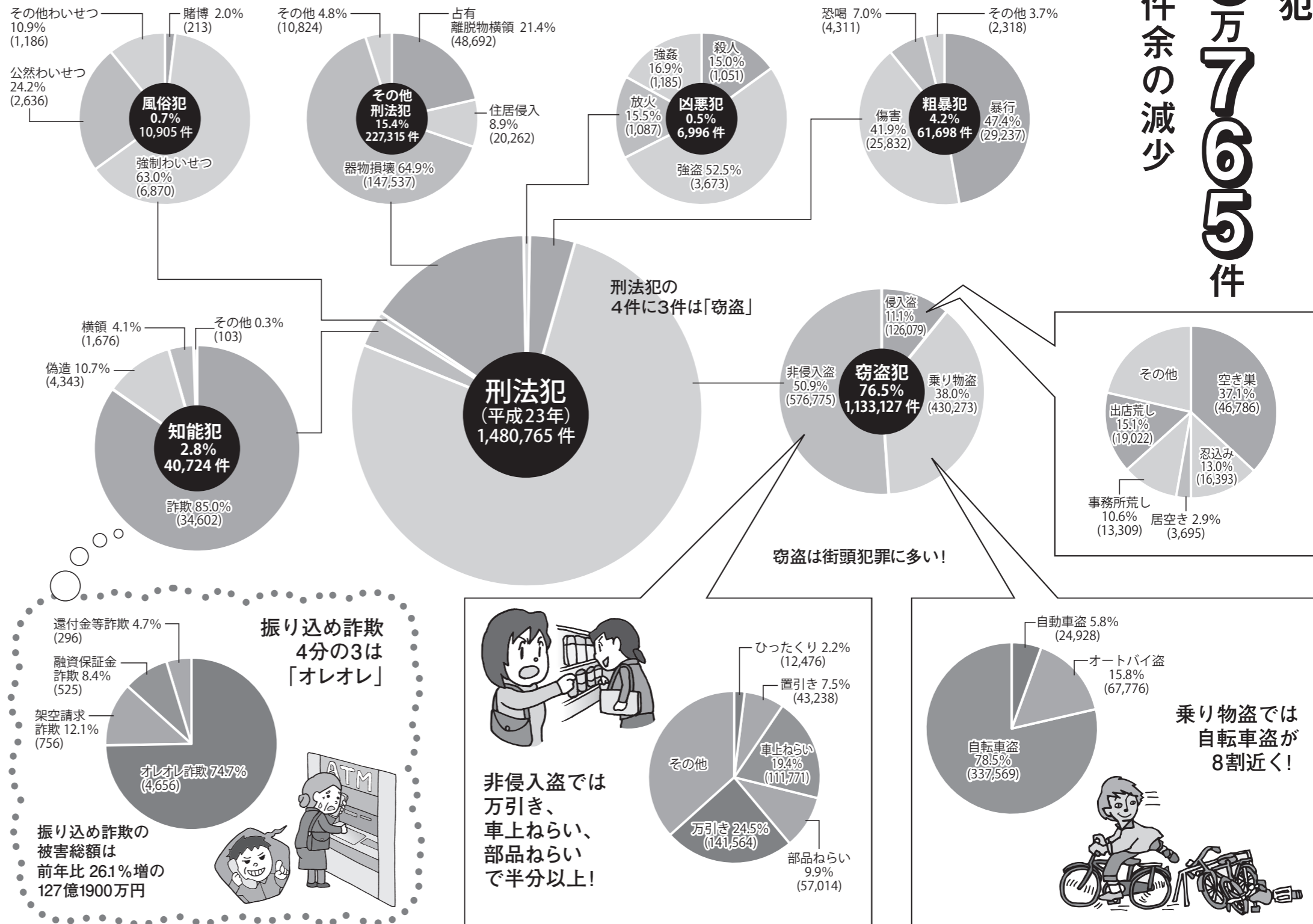
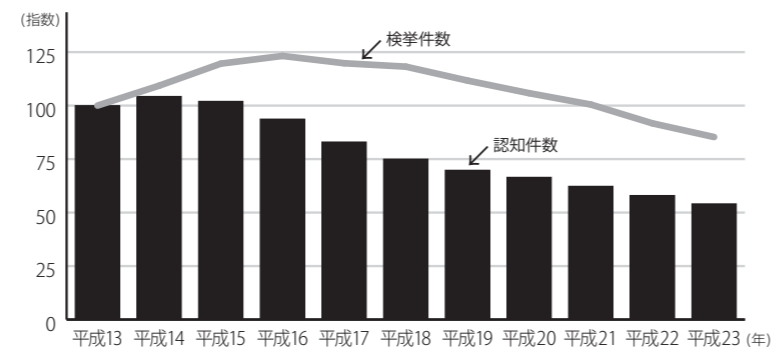
警察庁がまとめた「不正アクセス行為の禁止等に関する法律の一部を改正する法律」が5月1日施行された。不正アクセス行為の法定刑が「3年以下の懲役又は100万円以下の罰金」に引き上げられたとともに、処罰の対象外だったフィッシングやサイバー攻撃による他人のID・パスワードの不正取得・保管行為が禁止され処罰対象(1年以下の懲役又は50万円以下の罰金)となった。

NCN HEAD LINE は、関係機関・団体などのHPを参考にしてまとめたものです。

ご注意ください。

当社の防犯啓発商品に掲載した文章・イラスト・写真等を許可無く転載し、製作・販売している業者にご注意下さい。また、お客様のご発注により他の企業で作成された製品の中に、その企業が当社製品を許可無く転載、使用するケースも見受けられますので併せてご注意ください。

刑法犯の認知件数・検挙件数の推移 (平成13年を100とした指数表示)



平成23年の刑法犯認知件数 **148万7655件**

前年比10万5千件余の減少

警察庁は先頃、平成23年の「犯罪統計資料(確定値)」を発表しました。それによると、刑法犯の認知件数は前年より10万5091件(6.6パーセント)少なく、9年連続で減少しました。

また、検挙数は46万2540件で、前年比で7パーセントほど減少しました。

以下、刑法犯の認知件数と検挙件数につき、10年前の平成13年を100とした指数でこれまでの推移を見るとともに、罪種全般の構成率及びその特徴を概観してみました。

「親を守るろう！」振り込め詐欺対策に子ども世代の協力求める(警視庁)

警視庁は振り込め詐欺被害防止を訴える対象を、被害者になることの多い高齢者世代だけでなく、その子どもたちの世代にまで拡大する。同じ高齢者が複数回被害に遭ったり、被害届けを出していてもなお同様の手口の被害に遭うケースがあることから、高齢者本人への注意喚起はもちろん、子ども世代へも協力を求め「親がだまされないよう」呼びかける方針。



丸の内署では4月に「振り込め詐欺撲滅キャンペーン」を行い、副総監が「母さん、心配だ」をメインスローガンに運動を進めて行きますので、ビジネスマンの皆さまのご支援、ご協力をお願いしたい」とあいさつした。

若い力、防犯ボランティアの新しい担い手に(福岡)

警察庁によると、全国の防犯ボランティアは昨年末現在、約4万5600団体、約270万人。平均年齢60歳以上の団体が約6割を占める。

かねてから高齢化を危惧する同庁が、2010年4月に学生主体の団体結成を促すよう都道府県警に指示したこともあり、若者による防犯ボランティア団体は2

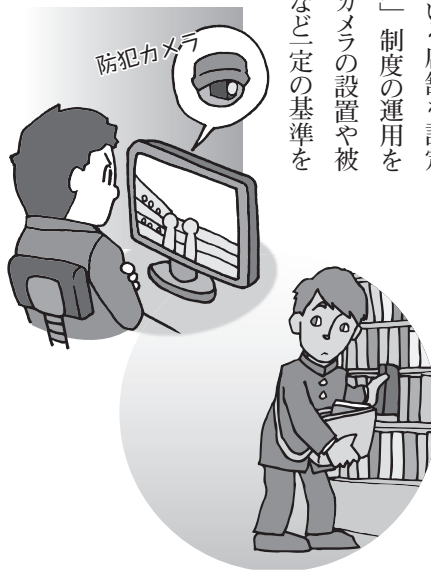
年前の3倍以上、161団体に急増したという。

福岡でも、警察の呼びかけで複数の大学が講座やゼミでボランティア活動を積極的に取り上げた結果、東京(23団体)に次ぐ13団体まで増えた。

現在、複数の大学の学生が中心となり、地元住民や小学生と地域を歩き、危険箇所を記した

全国初、万引き防止対策の「モデル店舗」制度(東京)

東京万引き防止官民合同会議(警視庁や都内民間事業者などで構成)が、万引き防止対策を模範的に行なっている店舗を認定する「モデル店舗」制度の運用を開始する。防犯カメラの設置や被害の全件届け出など一定の基準を



満たすとモデル店舗として認定されるもので、認定までの間、店側は専門的な指導を受けられる。

地図を作製したり、小学生の登下校の見守りや、キャンパス周辺などを夜間にパトロールするなど、多岐にわたる活動が行われている。

このような大学生ら若者が地域の防犯ボランティアに参加する動きは、各地で盛んになっており、新たな防犯の力として大きな期待がもたれている。



活動内容をお寄せください。

みなさまが行っている防犯対策や取り組み、地域の活動状況などを編集部までお寄せください。この「安心・安全intol」でご紹介させていただきます。また、活動を収めた写真がございましたら併せて掲載させていただきます。

川柳後記

編集後記に代え、防犯をテーマにした川柳はいかがでしょう。

標的を 探す形態

今ケータイ(悪事のツールは先を行く

「声かけ」で 万引き防止と

客ゲット(やる気店員)

我が孫の 三輪車にも

ツーロック(やりすぎジージ)

盗まれた カーナビ探す

ナビ欲しい(しばらくナビ無しです)

たまのベル カネの無心か

オレオレか...(どいつもこいつも)

コンビニの店番 コンビに

しましように(気弱な深夜のバイト君)

今の世は 疑う者が

救われる(聖人君子)

高齢化 詐欺の被害も

恒例化(私はゼツタイ大丈夫)

尻叩く 親の躰けが

叩かれる(子煩悩)

ご厄介 時に助ける

お節介(町内会長)

TOPICSは、関係機関・団体などのHPを参考にしまとめたものです。